

## 牛群検定通信No77

～夏バテ牛をケアしよう！～

まだまだ、暑い日が続いています。こうも暑いと牛よりも、人がまいってしまいそうです。みなさんも熱中症には気をつけてください。

今回は、牛群全体の暑熱対策ではなく、1頭1頭を観察して夏バテしている牛を早めに見つけ出すポイントを紹介します。体調が戻るように早めにケアしてあげましょう。

### 1 牛の観察

まずは牛の状態を観察することが大切です。夏バテしている牛には、次のような特徴があります。

#### (1) 呼吸数

通常は50～60回／分ですが、80回以上の開口呼吸を行います。

#### (2) 発汗、よだれ

ウォーターカップ等のトラブル無しに、飼槽がよだれでビチャビチャになっていたら、脱水症状が疑われます。

#### (3) 体 温 体温も上昇し、直腸温で39度を超えます。熱中症。

#### (4) 起立時間 立っていた方が放熱できるので、起立時間が長くなります。

#### (5) 食 欲 粗飼料よりも、濃厚飼料を好みます。

#### (6) 肢 蹄 濃厚飼料を好むので、蹄冠部が腫れてきます。蹄葉炎

#### (7) 元 気 なんとと言っても、元気がありません。

## 2 夏バテ牛の検定成績表

### (1) 乳 量

検定日乳量をみてください。もし、黒く大きな三角マークがついていたら、乳量が先月より40%以上低下したことを意味します。夏バテとは限りませんが、体調不良であることは間違いありません。

### (2) 乳脂率

低下します。これは、バルク全体で判断するのではなく、1頭ずつ検定日成績をみてください。特に、泌乳ピーク期の牛は乳脂率が低下しやすいことが知られています。

逆に、分娩直後は牛が痩せる時期ですが、夏バテが加わると、体脂肪動員がより一層進み、乳脂率が5%を超えるようになります。ケトosisを発症することもあります。

### (3) P／F比

高くなります。粗飼料を好まず、濃厚飼料を好みますのでP／F比が1.0を越えてしまいます。ルーメンアシドーシスを発症することもあります。

### (4) 繁 殖

分娩後の発情回帰が来ず、分娩後初回授精日数が長くなります。また、発情そのものも弱くなります。鈍性発情。